

ビッグデータを活用した地域経済分析システム

「RESAS」の利活用事例集の公表について

～沖縄管内から豊見城市及び南城市の2事例が採択～

自治体による地方創生の取組を情報面から支援するため、官民のビッグデータを集約し、可視化するシステム「地域経済分析システム(RESAS：リーサス)」が、経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）の連携の下に提供されています。この度、同システムの提供開始1周年を機に、自治体における利活用事例が取りまとめられましたので、公表します。本事例集に取り上げられた優良事例19件の内、沖縄管内からは、豊見城市及び南城市の2件の事例が採択されております。

沖縄総合事務局経済産業部としては、本事例集が、データに基づく新たな行政の在り方のモデルケースとして、より効果的な地域経済産業施策の検討・立案が更に促進されるとともに、施策立案の背景やプロセスを地域の皆様にも知っていただき、理解を深めていただく一助になることを期待しています。

1. 「地域経済分析システム(RESAS：リーサス)」の利活用

経済産業省は、内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）と連携し、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のビッグデータを集約し、可視化するシステムとして、昨年4月21日より、「地域経済分析システム(RESAS：リーサス)」を提供しています。

(URL：<https://resas.go.jp/> ※ブラウザは、Google Chrome を御利用下さい。)

この度、経済産業省では、自治体の取組を調査し、本システムを用いて地域の分析を行うとともに、そこから得られる情報に基づいて政策・施策の検討・立案に結びついた19の事例を取りまとめました。本事例集が、データに基づく新たな行政の在り方のモデルケースとして、政策・施策の検討・立案に至るまでの背景やプロセスを多くの自治体や国民の皆様幅広く知っていただき、また、御活用いただくきっかけになればと考えています。

2. 沖縄県における利活用事例

○沖縄県豊見城市 <医療産業を中心とした産業振興に関する分析 他>

人口動態から豊見城市の課題分析を行い、雇用者所得の地域外からの流入額が大きいことが分かり、豊見城市がベッドタウン型の都市であることがRESASの分析によって再確認されました。また、医療業や飲食店、宿泊業など市内に集積する産業間の連携を図り、医療ツーリズムを軸として産業振興していくことの有効性が分析により示唆されました。

○沖縄県南城市 <農業と観光産業の連携に関する分析 他>

南城市の強みである農水産業の方向性として、付加価値額の高い食料品製造業や観光資源の1つとなっているカフェなどの飲食店との連携が有効であることが示唆されました。また、流動人口の分析により、南城市の観光資源の分析を行うことができました。

沖縄県南城市.pdf

(問い合わせ先：南城市政策調整課 TEL 098-948-7229)

※ 事例の詳細につきましては、上記自治体に直接お問い合わせください。

3. 今後の取組

本年度も、自治体における「地域経済分析システム」の先進・優良利活用事例を調査し、取り上げていく予定です。また、当局では、本システムの活用促進に向け、システムの操作等に関する地方公共団体職員等からの相談窓口となる専門的な職員を配置し、本システムに関する利用支援を行っております。自治体の方は、是非お気軽に御相談ください。

【参考】

全国の事例については、経済産業省ウェブサイトをご参照ください。

- 経済産業省 HP : <http://www.meti.go.jp/press/2016/04/20160421002/20160421002.html>

問い合わせ先

内閣府沖縄総合事務局

経済産業部企画振興課

担当者：宮平、玉城、宮城

TEL：098-866-1727

FAX：098-860-1375

RESAS (リーサス：地域経済分析システム) の概要

目的

- 人口減少、過疎化が構造的に進展し、疲弊する地域経済を真の意味で活性化させていくためには、自治体が、**地域の現状・実態を正確に把握**した上で、**将来の姿を客観的に予測**し、その上で、**地域の実情・特性に応じた、自発的かつ効率的な政策立案**とその実行が不可欠。
- このため、国が、**地域経済に係わる様々なビッグデータ**（企業間取引、人の流れ、人口動態、等）を収集し、かつ、わかりやすく「見える化（可視化）」するシステムを構築することで、自治体による様々な取組における、真に効果的な**計画の立案、実行、検証（PDCA）**を支援する。

RESASを用いて把握できること（一例）

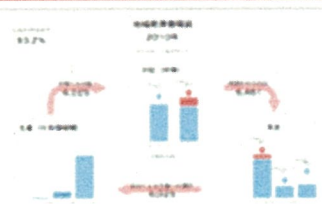
①産業マップ



企業数・雇用・売上
で地域を支える
産業が把握可能に

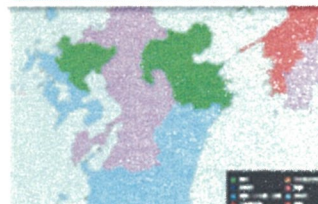
行政区域を超えた
産業のつながりが
把握可能に（※）

②地域経済循環マップ



自治体の生産・
分配・支出にお
けるお金の流
入・流出が把握
可能に

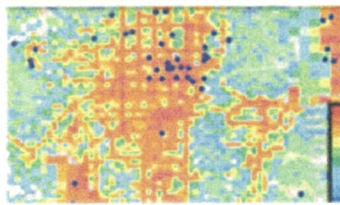
③農林水産業マップ



農業部門別の販売
金額割合が把握可
能に

農業経営者の年齢
・農地の利用状況
が把握可能に

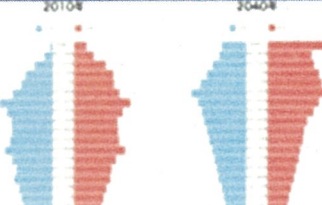
④観光マップ



どこからどこに
人が来ているか
把握可能に

インバウンド観
光動向が把握可
能に

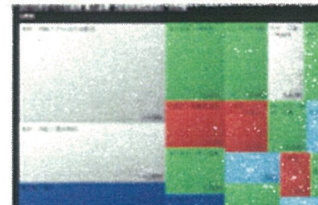
⑤人口マップ



人口推計・推移、
人口ピラミッド、
転入転出を合算
して把握可能に

地域の少子化と
働き方の関係が
把握可能に

⑥消費マップ



飲食料品や日用
品の購入金額・
購入点数の商品
別シェアが把握
可能に

⑦自治体比較マップ



各種指標を他の
自治体と比較し、
自らの位置付け
を把握可能に

（※）企業間取引データは、国および地方自治体の職員が一定の制約の下で利用可能な「限定メニュー」

豊見城市は、沖縄県豊見城市にあり、人口は約2万人、面積は約1,000ヘクタールである。豊見城市は、沖縄県豊見城市にあり、人口は約2万人、面積は約1,000ヘクタールである。



case.18

沖縄県豊見城市

RESASを使った分析例

- 1 人口動態から見た豊見城市の課題分析 P298
- 2 医療産業を中心とした産業振興に関する分析 P302

豊見城市は、沖縄県豊見城市にあり、人口は約2万人、面積は約1,000ヘクタールである。豊見城市は、沖縄県豊見城市にあり、人口は約2万人、面積は約1,000ヘクタールである。

豊見城市は、沖縄県豊見城市にあり、人口は約2万人、面積は約1,000ヘクタールである。豊見城市は、沖縄県豊見城市にあり、人口は約2万人、面積は約1,000ヘクタールである。

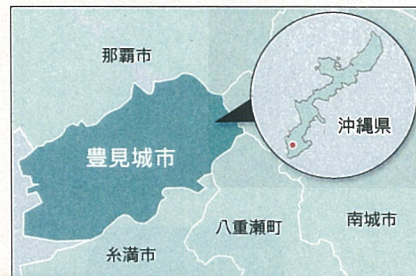
● 豊見城市の概要

沖縄本島南西部に位置する人口62,623人の市。埋立事業や企業誘致等が成果を収めたことで、人口は増加傾向にあり、東洋経済新報社の「全国都市成長力ランキング」では常に上位に位置している。東京女子医科大学と市内病院の連携により、再生医療の拠点化、医療ツーリズムの展開を図っている。

豊見城市は、沖縄本島南西部に位置し、北は那覇市、西は東シナ海、東は南風原町と八重瀬町、南は糸満市と隣接している。豊崎地区の埋立事業の成功や観光関連産業の誘致推進、宜保地区の区画整理事業により、人口や企業数が大幅に増加し、現在もその傾向が続いている。2002年には豊見城村から豊見城市となり、2012年には人口60,000人を突破した。東洋経済新報社がまとめている「全国都市成長力ランキング」では2006年、2010年に全国1位となるなど、成長著しい都市である。

市の西海岸と海中道路で結ばれている周囲約1.5kmの瀬長島は、慶良間諸島に沈む美しい夕日が見ることができ、また、那覇空港を離発着する飛行機を目の前で見ることができる島として知られている。2013年には大型リゾートホテル「琉球温泉 瀬長島ホテル」がオープンしたことで、更に注目を集めている。また、2010年に西海岸の豊崎地区にオープンした「豊崎美らSUNビーチ」は、全長約700mの県内最大級の人工ビーチで、那覇空港から最も近いビーチであることから、那覇発着の際に気軽に立ち寄れるビーチとして観光客の注目を集めている。

■国内における位置



■隣の楽園。瀬長島



■主要データ

面積※1	19.60km ²	世帯数※2	24,133世帯
人口※2	62,623人	事業所数※4	2,137
人口密度※3	3195.1人/km ²	従業者数※5	23,727人

出典／※1 平成27年全国都道府県市区町村別面積調
 ※2 住民基本台帳人口(平成28年1月末時点)
 ※3 上記記載の「人口÷面積」にて算出
 ※4 平成26年経済センサス-基礎調査(事業内容等不詳を含まず)
 ※5 平成26年経済センサス-基礎調査(男女別の不詳を含む)

● RESAS活用の背景／活用状況

豊見城市で推進している医療ツーリズムの実現と再生医療の拠点化に向けた、産業集積の状況と中核企業である医療機関の取引関係の分析にRESASを活用している。

豊見城市では漸増傾向にある自然増と、20～30代の若い世代の転入超過による社会増により、人口は増加を続けている。しかし、産業基盤の面でやや弱いところがあり、多くの市民が隣接する那覇市に働きに出ていることが課題となっている。今後、自立した地域経済を確立するためには、産業基盤を強化し、新たな雇用を創出することで、働きやすく暮らしやすい社会づくりを進めることが求められている。現在、基盤産業育成施策として、医療ツーリズムの展開と再生医療の拠点化を進めているが、そのための産業集積の状況と中核企業である医療機関の取引関係の分析にRESASを活用している。

また、2016年4月には、企画情報課内に「統計班」が新設されるなど、今後も一層RESASの活用を進めていく方針であり、市庁舎の移転に伴う周辺地域の開発や観光振興地域である豊崎地区での企業誘致、市内の低・未利用地における企業誘致などにも、RESASを活用して企業と地域のつながりなどを把握しながら施策立案を進める予定である。

● RESASの分析によって得られた内容

RESASを活用したことで、豊見城市の医療産業の集積の状況について確認することができ、医療ツーリズムの実行や再生医療の拠点化に向けた経済効果の検証を行うことができた。

RESASを活用したことで、かねてより課題とされていた雇用の流出が確認された。また、医療ツーリズムを軸とした医療産業の集積及び関連産業の連携が、地域経済の活性化に有効であるという示唆が得られた。

まず、人口分析においては、雇用者所得の市外からの流入や、平日に豊見城市から那覇市への人口流入が多く見られることから、那覇市に多くの人が働きに出ている状況が再確認された。今後は、地域産業の支援や企業誘致による域内産業の強化を図り、具体的な雇用創出施策の検討を更に進めていく予定である。

次に、産業分析においては、豊見城市の中心産業である医療業は、従業者数や付加価値額において強みがあり、今後、地域内の飲食店やリゾートホテル等の宿泊業と連携し、医療ツーリズムを軸とした産業振興を推進していくことで、新たな雇用の創出や観光振興、域内消費の増加が期待されることが示唆された。また、医療関連企業の集積により地域経済の活性化が見込まれることが分かったため、再生医療関連企業の誘致に積極的に取り組んでいく予定である。



RESASの活用風景

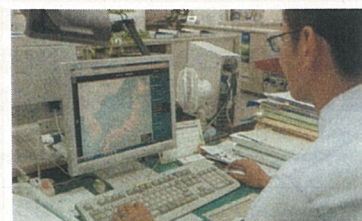
■RESASによる分析結果をもとに議論する様子



■RESASを活用し、施策立案のためのヒントを探す様子



■観光マップを活用し現状把握に努める様子



人口動態から見た豊見城市の課題分析

●活用の背景

豊見城市の人口は増加傾向にあり、現在62,623人の人口は2020年には約63,000人になると推計され、今後もしばらくは人口の増加が続くものと考えられる¹。更に豊崎地区における住宅地形成の進行や、市庁舎の移転を計画している豊見城交差点付近の中心市街地の形成、那覇空港自動車道や幹線道路の整備に伴う沿線土地利用の高度化などにより、人口推計を上回る可能性もある。しかし、沖縄本島中南部における米軍基地の返還とそれに伴う新たな土地利用が進むことにより、豊見城市の持つ優位性が薄れ、人口推計を下回る可能性もある。

豊見城市は那覇市の南に隣接しているため、ベッドタウンとして人口が増加しているが、自立した地域経済の確立という観点では、域内での雇用が重要となる。そこで、RESASを活用して、人の流れの現状分析を行った。

●分析内容

第18-1-1図は、豊見城市の人口推移を示したものである。これを見ると、豊見城市の人口は今後も増加傾向にあることが分かる。総人口だけでなく生産年齢人口も増加しており、更に年少人口の割合も、全国の12.8%²に比べ、約20%と高い割合を維持していることが特徴である。

第18-1-2図は、豊見城市の人口の自然増減、社会増減の推移を示したものである。これを見ると、豊見城市では自然増減、社会増減ともに増加傾向にあることが分かる。

第18-1-3図は、豊見城市とその近隣市町の合計特殊出生率を示したものである。これを見ると、豊見城市では2003-2007年に1.87、2008-2012年に2.03となっており、伸びが大きいことが分かる。

第18-1-4図は、豊見城市の地域経済循環図を示したものである。これを見ると、雇用者所得において地域外からの流入額が大きいことが分かり、市民の多くが市外へと働きに出ていることが推察される。

第18-1-5図は、那覇市の平日の滞在人口の流入先を示したものである。これを見ると、那覇市の流入先として豊見城市が3位(30,400人)となっており、豊見城市から那覇市へ、通勤等による平日の人口移動があることが推測される。

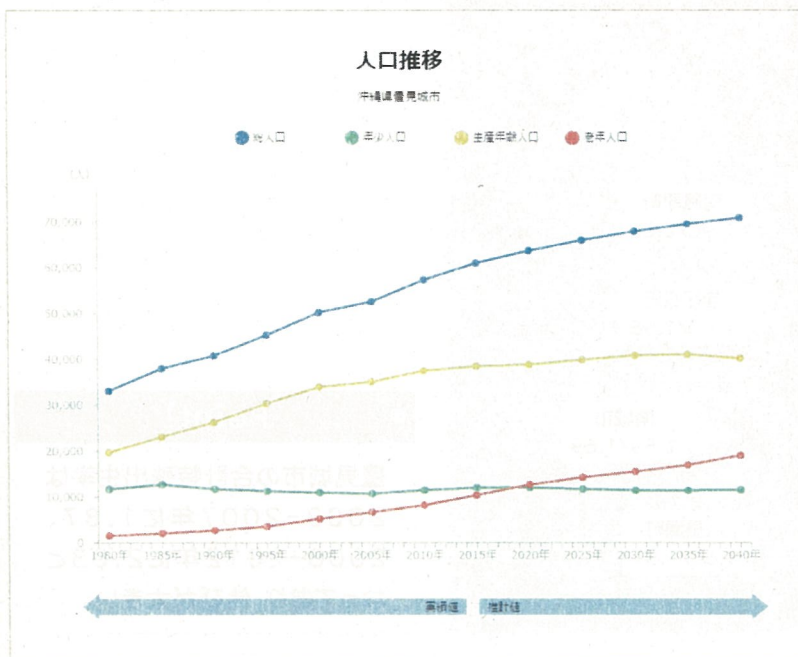
●得られた結論・今後の展開

担当者からは、「雇用者所得の地域外からの流入額が大きいことなど、豊見城市は市外へと働きに出る市民の多いベッドタウン型の都市であることが、RESASの分析によって再確認された。」との発言があった。域内での雇用の場を増やすことで、雇用による税収や域内での消費を増やし、地域経済を活性化することが改めて認識された。今後は、豊見城市で推進している医療ツーリズムや再生医療の拠点化などを実施することで、域内産業の強化を図っていきたい。

1 資料：第四次豊見城市総合計画

2 資料：総務省「人口推計」(2014年)

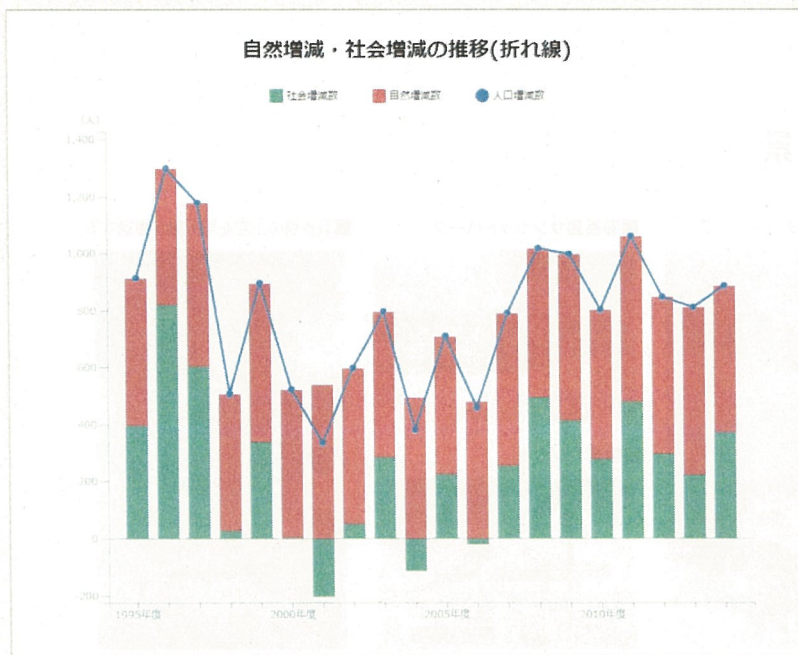
■(第18-1-1図)人口マップ 人口構成 人口推移
[沖縄県豊見城市]



Point!

豊見城市の人口は今後も増加傾向にあることが分かる。総人口だけでなく生産年齢人口も増加しており、更に年少人口の割合も、全国の12.8%に比べ、約20%の高い割合を維持している。

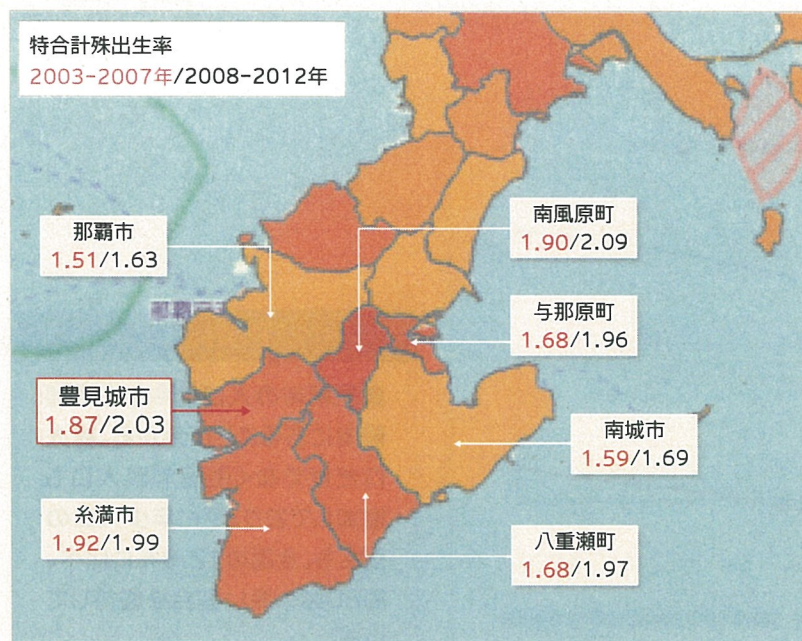
■(第18-1-2図)人口マップ 人口増減 自然増減・社会増減の推移(折れ線)
[沖縄県豊見城市]



Point!

豊見城市では自然増減、社会増減ともに増加傾向にある。

■(第18-1-3図)人口マップ 人口の自然増減
[沖縄県豊見城市]



Point!

豊見城市の合計特殊出生率は
2003-2007年に1.87、
2008-2012年に2.03と
なっており、伸びが大きい。

豊見城市の風景

とよさきちゆ
■県内最大級の人工ビーチ。豊崎美らSUNビーチ



■瀬長島サンセットパーク



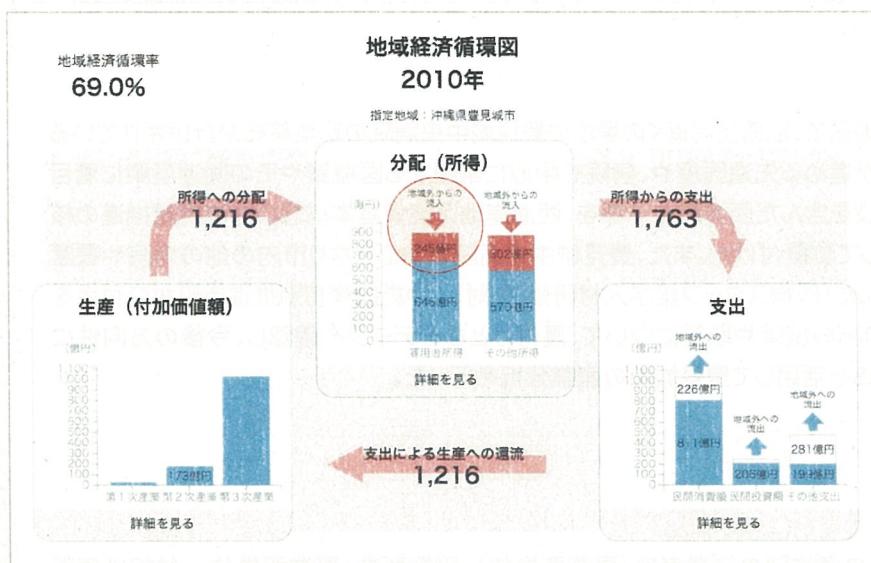
■瀬長島の上空を飛行機が通過する



■豊崎ヤシの木



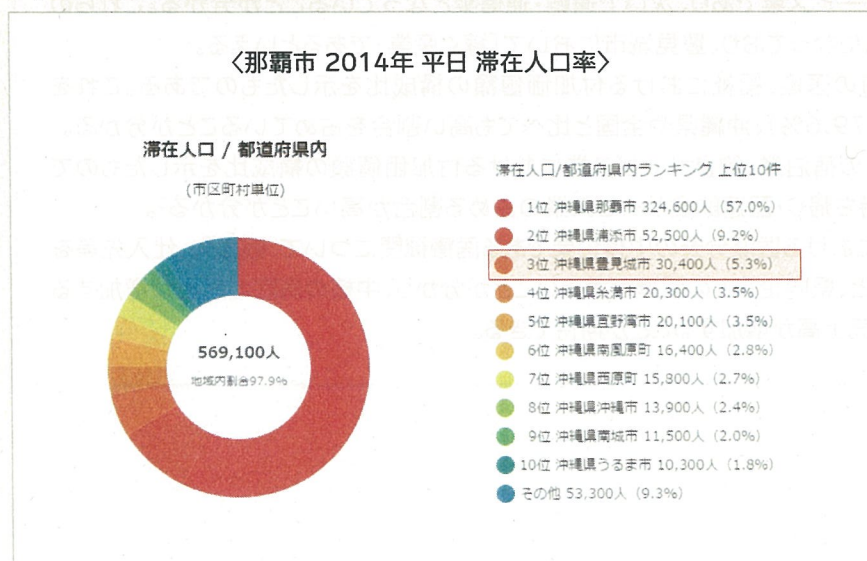
■(第18-1-4図)地域経済循環マップ 地域経済循環図
[沖縄県豊見城市 2010年]



Point!

雇用者所得において
地域外からの流入額が
大きく、市民の多くが
市外へと働きに出ている
ことが推察される。

■(第18-1-5図)観光マップ From-to分析(滞在人口)
[2014年(平日) 沖縄県那覇市]



Point!

那覇市では、豊見城市
からの滞在人口の流入
が3位(30,400人)と
なっており、豊見城市
から那覇市へ、通勤等
による平日の人口移動
があることが分かる。

医療産業を中心とした産業振興に関する分析

●活用の背景

豊見城市では、市の西海岸地区で、那覇空港近くの場所に豊見城中央病院の新築移転が計画されていることを機に、豊見城中央病院が進める先進医療や、病院を中心に集積する医療業やその関連産業に着目して、豊崎地区の医療関連施設を含んだ西海岸の一部を、西海岸地区整備基本構想の中で健康推進の核となる「ヘルスケアゾーン」として位置付けた。また、豊見城中央病院が中心となり市内の他の病院や看護学校生と一緒にあって取り組んだ「医療スタッフ語学人材研修」に対し、沖縄振興特別推進市町村交付金を活用して支援を実施した。これらの施策や取組について、裏付けとなるデータを確認し、今後の方向性について検討するために、RESASを活用して豊見城市の産業分析を行った。

●分析内容

第18-2-1図は、豊見城市の産業別の従業者数(事業所単位)、事業所数(事業所単位)、付加価値額(企業単位)を示したものである。これを見ると、地域で雇用を多く生み出しているのは医療業、社会保険・社会福祉・介護事業、飲食料品小売業であることが分かる。事業所数では、飲食店、その他の小売業、洗濯・理容・美容・浴場業などが多い。また、付加価値額では、医療業が突出して多く、次に社会保険・社会福祉・介護事業が多い。

第18-2-2図は、豊見城市の産業別の生産額(総額)を示したものである。これを見ると、産業別に最も生産額(総額)が多いのは、サービス業であり、次いで運輸・通信業となっていることが分かる。これらの産業は移輸入収支もプラスになっており、豊見城市において「稼ぐ産業」であるといえる。

第18-2-3図は、豊見城市の医療、福祉における付加価値額の構成比を示したものである。これを見ると、医療業の割合が高く(79.6%)、沖縄県や全国と比べても高い割合を占めていることが分かる。

第18-2-4図は、豊見城市の宿泊業、飲食サービス業における付加価値額の構成比を示したものである。これを見ると、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業の占める割合が高いことが分かる³。

第18-2-5図は、豊見城市における医療分野の中核企業である医療機関について、販売先、仕入先等を示したものである。これを見ると、県内企業との関連が大きいことが分かり、中核の病院の売上が増加することで、関連する企業の多くは売上高が増加することが期待できる。

3 現在、豊見城市には、2009年にオープンした「ホテルグランビューガーデン沖縄」、2013年にオープンした「琉球温泉 瀬長島ホテル」の2軒のホテルが立地するが、これらのデータは2012年の構成比には反映されていないものと考えられる。

医療産業を中心とした産業振興に関する分析

●得られた結論・今後の展開

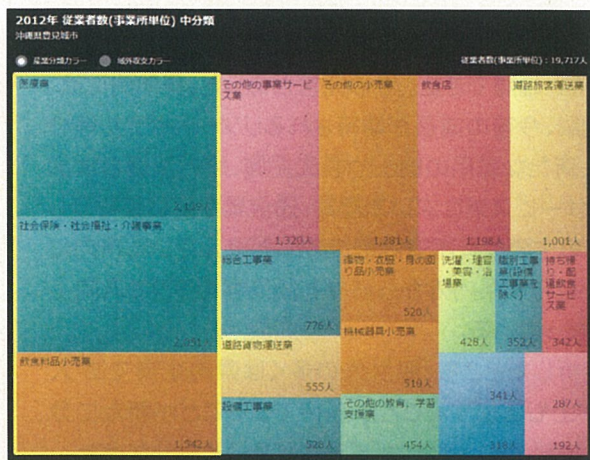
担当者からは、「RESASの分析により、医療業や飲食店、宿泊業など市内に集積する産業間の連携を図り、医療ツーリズムを軸に産業振興していくことが有効であると確認できた。」との発言があった。具体的には、雇用や付加価値額の高い医療業、事業所数の多い飲食業、今後の成長が期待されるリゾートホテル等の宿泊業が、医療ツーリズムを軸とした連携をすることで、新たな雇用の創出や観光振興、域内消費の増加が期待されることが分かった。更に、生産額(総額)では、サービス業に次いで運輸・通信業が高い値を示しているが、これは那覇空港に隣接し、また、那覇空港までの主要な幹線道路網の整備が進んでいる市内に貸切バス会社が多く進出しているためであり、市民のみならず県内外から訪れる観光客のアクセス向上にも寄与するなど、医療ツーリズムに向けたインフラも整っている。

また、「RESASを活用して市内にある医療機関を分析したところ、取引先の多くは県内企業であり、各医療機関の売上が増加することで、取引先企業の売上も増加することが期待できることが新たに分かった。」との発言もあり、医療関連企業の集積により地域経済の活性化が見込まれることが分かった。

今後も、医療産業の集積を図って関連企業の誘致を積極的に実施し、誘致企業の選定の際には、地域とのつながりや波及効果を確認するなど、RESASを積極的に活用していく方針である。

■(第18-2-1図)産業マップ 全産業花火図 中分類 産業分類カラー
[沖縄県豊見城市 2012年]

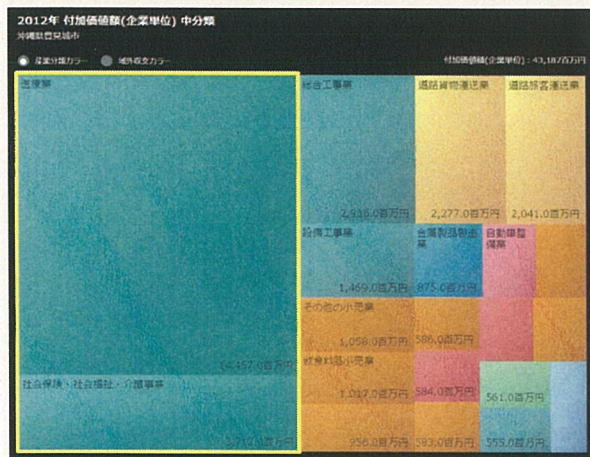
従業者数(事業所単位)



事業所数(事業所単位)



付加価値額(企業単位)



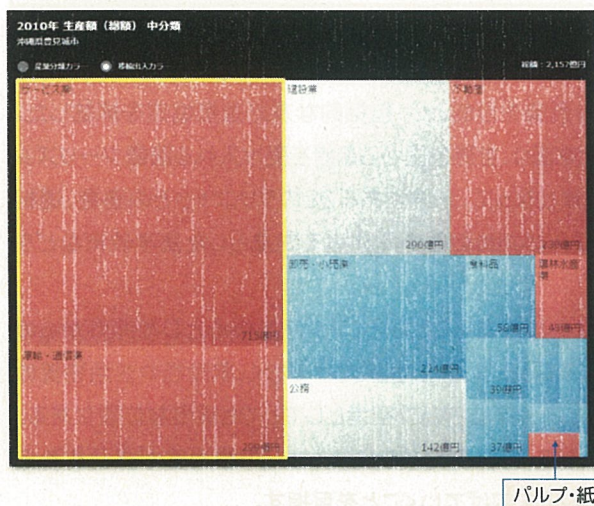
Point!

地域で雇用を多く生み出しているのは医療業、社会保険・社会福祉・介護事業、飲食料品小売業である。

事業所数は飲食店、その他の小売業、洗濯・理容・美容・浴場業などが多い。

付加価値額は医療業が突出して多く、次に社会保険・社会福祉・介護事業が多い。

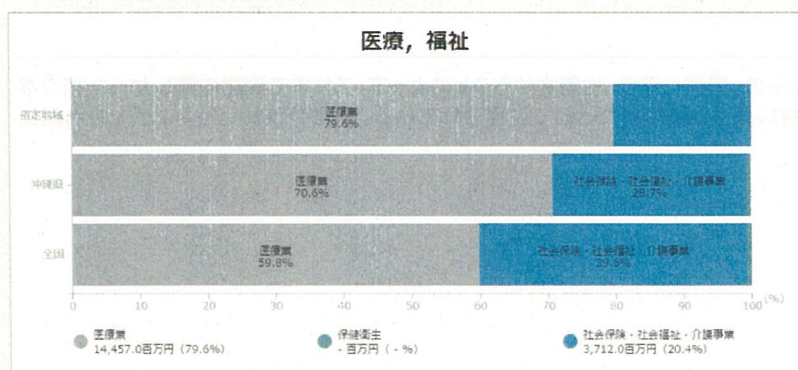
■(第18-2-2図)地域経済循環マップ 生産分析 生産額(総額) 中分類 移輸出入カラー
[沖縄県豊見城市 2010年]



Point!

最も生産額(総額)が多いのはサービス業であり、次いで運輸・通信業である。これらの産業は移輸出入収支もプラスになっており、「稼ぐ産業」であるといえる。

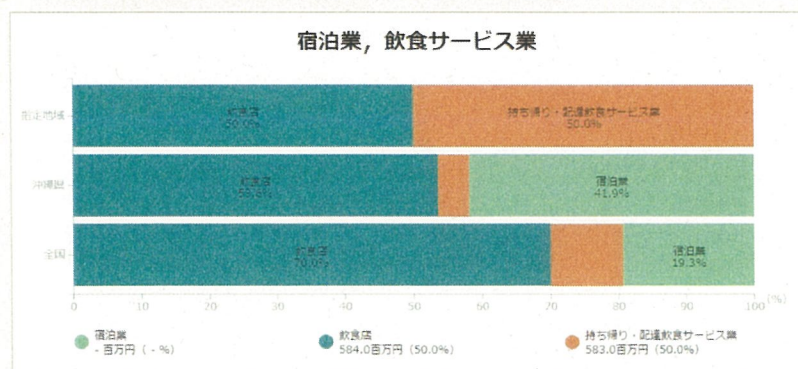
■(第18-2-3図)産業マップ 全産業花火図 付加価値額(企業単位) 中分類 割合順
[沖縄県豊見城市 医療,福祉 2012年]



Point!

医療,福祉では、医療業の付加価値額構成比が高く(79.6%)、沖縄県や全国と比較しても高い割合を占めている。

■(第18-2-4図)産業マップ 全産業花火図 付加価値額(企業単位) 中分類 割合順
[沖縄県豊見城市 宿泊業,飲食サービス業 2012年]



Point!

宿泊業,飲食サービス業では、飲食店、持ち帰り・配達飲食サービス業の付加価値額構成比が高い。2009年、2013年にオープンしたリゾートホテルについては数値に反映されていないと考えられる。

豊見城中央病院の再生医療拠点化に伴う医療ツーリズムの展開

豊見城中央病院は、2015年、沖縄県における再生医療実施体制の本格化を目指して、東京女子医科大学が開発した「細胞シート⁴工学」の再生医療への臨床応用とその普及体制の構築を目的とし、包括的な友好連携協定を締結した。5年間の協定期間を通して、豊見城中央病院は再生医療の拠点化を図り、世界各国から患者を受け入れる医療ツーリズムの展開を視野に入れている。これまでに、豊見城中央病院が主体となって、市内にある28のクリニックとの連携、透析治療のニーズが高いとされる台湾への現地調査、外国人患者受入のための医療関係者を対象とした語学教育などを実施している。

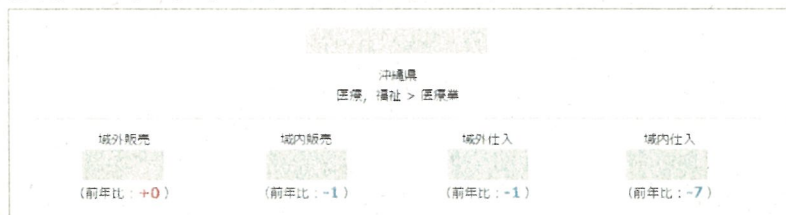
豊見城市の豊崎地区には、沖縄県内で唯一のアウトレットモールがあることから、アジアを中心とした海外からの観光客も多い。また、那覇空港は、沖縄県のリーディング産業である観光・リゾート産業だけでなく、農産物や生活物資の輸送など様々な方法で活用されており、沖縄県の玄関口として、国内外を結ぶハブ空港としてとても重要な位置にある。現在整備が進められている第二滑走路の供用が開始されることで、アジアを中心にたくさんの観光客が見込まれることから、那覇空港の滑走路増設に合わせて医療ツーリズムの展開を広げていくことを目指す。

豊見城市は沖縄振興特別推進市町村交付金を活用して補助金を交付し、医療ツーリズムの展開を支援している。

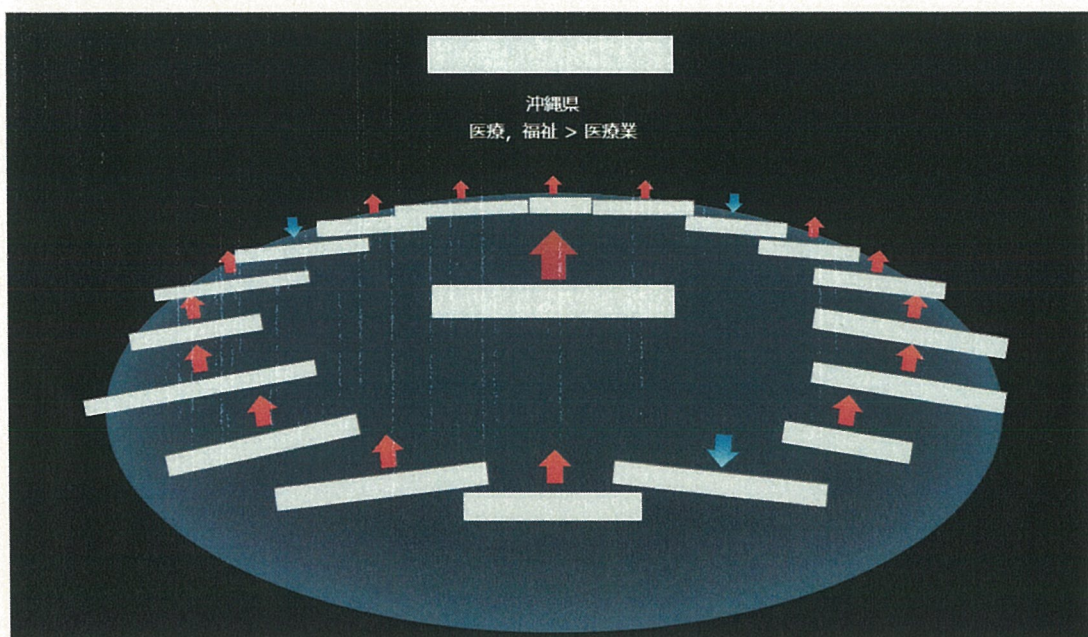
- 4 患者自身の細胞を培養してシート状にしたもの。患部に貼り、生着させることによって、これまで治療の難しかった様々な病気で症状の改善・治癒を期待できるとされ、再生医療の1つとして注目されている。心臓や軟骨、角膜などへの治療に応用されている。

■(第18-2-5図)産業マップ 企業別花火図

[個別企業情報 医療法人A 域内外販売・仕入]



[個別企業情報 医療法人A 仕入先企業 売上高の状況を見る]



Point!

地域中核企業である医療機関の取引先の多くは県内企業であり、該当機関の売上が増加することで、その取引先企業の多くは売上高が増加する傾向にある。

協 力

豊見城市 企画部 企画情報課 098-850-0246
 豊見城市 企画部 商工観光課 098-850-5876

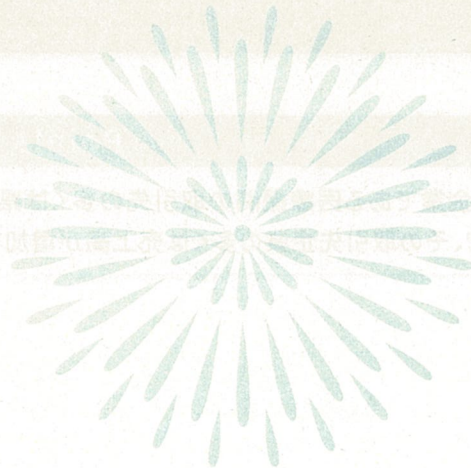
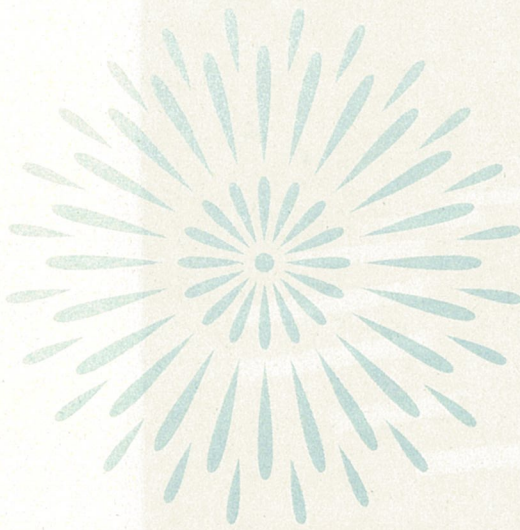
[2016年2月9日 取材]

附録 2 国債の発行と償還の状況（平成 25 年度）

国債の発行と償還の状況（平成 25 年度）

（注）1. 国債の発行と償還の状況（平成 25 年度）

（注）2. 国債の発行と償還の状況（平成 25 年度）



国債の発行と償還の状況（平成 25 年度）

国債の発行と償還の状況（平成 25 年度）

国債の発行と償還の状況（平成 25 年度）

国債の発行と償還の状況（平成 25 年度）

case.19

沖縄県南城市

RESASを使った分析例

- | | | |
|---|--------------------|------|
| 1 | 農業と食料品製造業の連携に関する分析 | P313 |
| 2 | 農業と観光産業の連携に関する分析 | P318 |

● 南城市の概要

沖縄本島南部の東海岸、那覇市から約12kmに位置する人口42,914人の市。神の島と呼ばれている「久高島」、世界文化遺産である「^{セーファウタキ}斎場御嶽」、「おきなわワールド」などの観光資源に加え、近年では市内に多数のカフェが立地し観光地として人気を博している。農水産業が基幹産業となっており、クルマエビ、もずく、海ブドウなどの養殖や各種野菜・果物、ハーブなどの栽培が盛んである。

南城市は、2006年に佐敷町、知念村、玉城村、大里村が合併してできた沖縄本島南部の東海岸、那覇市から約12kmに位置する市であり、静穏な^{なかぐすくわん}中城湾と太平洋に面している。大里地区など那覇市への利便性が高い住宅地、市街地としての都市機能を有するエリアと、知念地区など美しい海岸線と緑豊かな自然環境、数多くの歴史的資源を有し「沖縄らしさ」が残されたエリアが両立しているのが特徴である。神の島と呼ばれる「久高島」、世界文化遺産で年間約40万人の観光客を集める「^{セーファウタキ}斎場御嶽」をはじめとする貴重な歴史的・文化的資源のほか、国内有数の鍾乳洞や沖縄古来の町並みが楽しめる「おきなわワールド」が立地するなど、観光資源も多い。また、近年では、「高所から海を眺める」、「海岸沿いから海を眺める」、「広大な庭園を有する」、といった個性的な特徴を持つ、観光客にも人気を博しているカフェが多数、立地している。

農水産業が基幹産業となっており、クルマエビ、もずく、海ブドウなどの養殖、インゲン、ゴーヤ、オクラなどの野菜やパパイア、マンゴーなどの果物に加え、薬草・ハーブなどの栽培も盛んである。

■主要データ

面積 ^{※1}	49.94km ²	世帯数 ^{※2}	16,434世帯
人口 ^{※2}	42,914人	事業所数 ^{※4}	1,387
人口密度 ^{※3}	859.3人/km ²	従業者数 ^{※5}	10,476人

出典／※1 平成27年全国都道府県市区町村別面積調

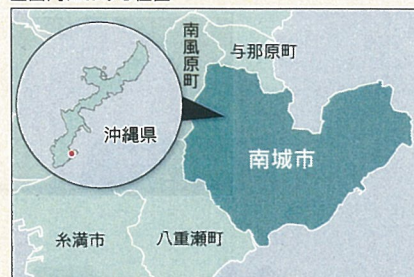
※2 南城市人口統計 行政区別住民登録人口(平成28年2月末時点)

※3 上記記載の「人口÷面積」にて算出

※4 平成26年経済センサス-基礎調査(事業内容等不詳を含まず)

※5 平成26年経済センサス-基礎調査(男女別の不詳を含む)

■国内における位置



■ニライ橋カナイ橋



■垣花樋川



● RESAS 活用の背景 / 活用状況

那覇市のベッドタウンとしての機能にとどまらず、地域で自立可能な就労の場を創り出し、地域産業を活性化する施策を検討するために、RESASを用い、地域で強みのある農水産業の分析を行っている。

南城市では、2010年までは人口増加率が徐々に低下する傾向をたどり、2005年～2010年には、ほぼ横ばいのレベルにまで落ち込んでいた¹が、2010年8月の都市計画の見直しを契機に状況は大きく変化し、見直しの2年後の2012年以降は、年を追うごとに人口増加率が上昇している。2015年の人口増加率である1.4%は、5年間の人口増加率に換算すると7%に相当し、過去と比べても極めて高い水準にあるといえる²。南城市への転入は沖縄県内からが74.7%、特に那覇都市圏³からの転入が60%を超える⁴。

南城市の自市町村内就業率は、那覇都市圏内では那覇市を除く10市町村中、糸満市、浦添市に次いで高く⁵、自立した経済の基盤を備えているといえるが、南城市への転入者の多くは那覇市等に通勤していることが分かっている。地区別に人口増加率を見ると、那覇市への利便性が高い大里地区などでは増加しているが、その他の地域、特に知念地区では人口が減少するなど、地区によって大きな差が生じている⁶。地域の活性化のためには、市内での雇用の受け皿を拡充することが必要と考えられる。

現在策定を進めている「南城ちゃーGANJU CITY創生戦略」では、就労機会の拡充をテーマに「地域資源を活用し、自立可能な就労の場を創り出す」ことを基本目標の1つとして掲げている。その中で「やりがいのある農水産業、もうかる農水産業の実現」として、農水産業の6次産業化や経営基盤の強化についての施策の検討を行っており、南城市における農業の現状分析及び今後の地域経済の活性化に資する他産業連携の可能性について、政策調整課でRESASを活用した分析を行っている。

また、観光商工課においては、近年の市内でのカフェの集積や、隣町の大型MICE⁷施設誘致等の影響を踏まえ、南城市の観光の魅力を再確認し、今後の施策の方向性について検討することを目的に、RESASを活用した分析を行っている。

1 資料：総務省「国勢調査」

2 資料：住民基本台帳

3 那覇市、周辺5市町（糸満市、豊見城市、与那原町、南風原町、八重瀬町）に、宜野湾市、浦添市、西原町、中城村を加えた11市町村（南城市を含む）を指す。

4 資料：住民基本台帳人口移動報告

5 資料：総務省「国勢調査」

6 資料：2011年～2015年の人口増加率。資料：住民基本台帳

7 MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称である。MICEは、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、一般的な観光とは性格を異にする部分が多い。人の集積や交流から、ビジネス・イノベーションの機会の創造、地域への経済効果、国・都市の競争力向上の主に3つの効果が生まれることが考えられる。

● RESASの分析によって得られた内容

南城市の強みである農水産業を活かした産業振興の方向性として、付加価値の高い食料品製造業や魅力ある観光資源の1つとなっているカフェなどの飲食店との連携が有効であることが確認された。

RESASを活用したことで、「南城ちゃーGANJU CITY創生戦略」における「地域資源を活用し、自立可能な就労の場を創り出す」という基本目標を実現するための方向性を確認することができた。また、観光分野においては、隣町の大型MICE 施設誘致に伴う環境の変化にも対応した、新たな観光の振興の方向性を確認することができた。

産業分析からは、農水産業が「稼ぐ産業」として強みがある一方で、生産性が低いことが課題であり、付加価値の高い食料品製造業との連携によって、相乗的な付加価値額の向上が期待できることが分かった。今後は、南城市の多様な農産物を活用したブランド化や6次産業化を推進する施策を更に充実させ、稼ぐ農水産業の実現を図っていく予定である。

観光分野の分析では、南城市には、年間を通して一定数の観光客が訪れていることが確認され、その中でも、「おきなわワールド」、「斎場御嶽」、「カフェくるくま」への訪問客が多いことが分かった。また、カフェなどの飲食店では6次産業化など付加価値額向上の取組が既に進んでいることに加え、前述した食料品製造業と農水産業の連携を進めていくことから今後の付加価値の更なる伸びが期待される。

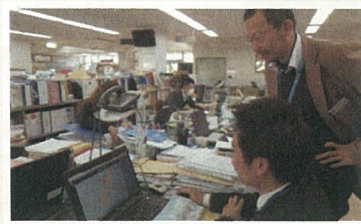
今後は、MICE関連のビジネス客や外国人観光客の増加が予想されており、地域の強みである「食」と、南城市ならではの歴史的・文化的資源や豊かな自然の魅力を組み合わせた周遊プランの開発等によって、観光産業、地域産業の更なる発展を図っていく方針である。

RESASの活用風景

■RESAS活用検討会の様子



■RESASを活用し、今後の施策を検討する様子



■活用のための資料



農業と食料品製造業の連携に関する分析

●活用の背景

南城市における第1次産業の構成比(就業者の割合)は全国、沖縄県全体、周辺5市町平均のいずれをも上回っており、南城市の基幹産業となっている⁸。漁業分野ではクルマエビ、もずく、海ブドウなどの養殖、農業分野ではインゲン、ゴーヤ、オクラなどの野菜やパパイア、マンゴーなどの果物に加え、薬草・ハーブなどの栽培も盛んである。また、養鶏・養豚などの畜産業も盛んで、多岐にわたる一次産品を生産している。

しかしながら、県内平均や周辺市町と比べて、農家一戸当たりの生産農業所得額が低い⁹という課題も存在しており、「やりがいのある農水産業、もうかる農水産業」の実現に向け、農水産業の6次産業化や経営基盤の強化についての施策の検討を行っており、その中で、南城市における農業の現状分析及び今後の地域経済の活性化に資する他産業連携の可能性について、RESASを活用した分析を行っている。

●分析内容

第19-1-1図は、南城市の生産額(総額)を移輸出入カラーで示したものである。これを見ると、農林水産業、食料品、窯業・土石製品が移輸出入カラーでプラスを示し、南城市の「稼ぐ産業」となっていることが分かる。

第19-1-2図は、沖縄県内市町村の農産物販売金額(総額)上位10位を示したものである。これを見ると、南城市の農産物販売金額は、県内では宮古島市、石垣市に次ぐ3位であり、沖縄本島では1位であることが分かる。

第19-1-3図は、南城市の農業部門別販売金額(総額)について、2005年から2010年の推移を示したものである。これを見ると、南城市の農業は酪農、養鶏、養豚などの畜産業及び施設野菜、露地野菜など多岐にわたるが、販売金額の総額は減少していることが分かる。

第19-1-4図は、南城市における農業の出荷先別販売金額(総額)について、2005年から2010年の推移を示したものである。これを見ると、販売先及び構成比にあまり変化がないことが分かり、今後、農業の付加価値額向上のために収益性の高い販売先の創出が必要であることが示唆される。

第19-1-5図は、南城市の製造業における付加価値額(企業単位)の内訳を示したものである。これを見ると、食料品製造業の占める割合が沖縄県、全国と比較しても高く、産業が集積していることが分かる。

第19-1-6図は、南城市の製造業における産業別の特化係数を示したものである。これを見ると、食料品製造業は付加価値額、従業者数が高いことが分かる。

第19-1-7図は、南城市の製造業における中核企業候補(コネクター度50%、ハブ度50%)のうち、食料品製造業の上位7社について取引状況を示したものである。これを見ると、域外仕入が多いことが分かり、域内取引の促進が必要であることが示唆された。

8 資料:総務省「国勢調査」(2010年)

9 資料:農林水産省「生産農業所得統計」(2006年)

農業と食料品製造業の連携に関する分析

●得られた結論・今後の展開

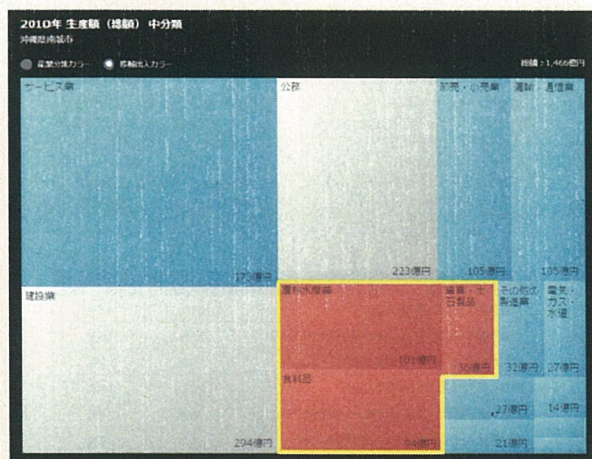
担当者からは、「農水産業は南城市の基幹産業であり、振興に力を入れている。RESASの分析によって、農水産業、特に農業と食料品製造業の2つを活かすことで、相乗効果として地域経済の活性化が見込めることが分かった。」との発言があった。南城市の農業は、沖縄県内でも上位の販売額があり、移輸入入収支もプラスの「稼ぐ産業」であるにもかかわらず、農家一戸当たりの所得は低いのが現状である。農業と付加価値額の高い食料品製造業との連携によって、相乗的な付加価値額向上が期待できることが確認された。また、食料品製造業では域外取引が多いことが確認され、今後は域内での仕入を促進していく施策が必要であることが示唆された。

今後は、多岐にわたる農産物を活用し、ブランド化や6次産業化¹⁰を推進する施策を更に充実させることで、農水産業の収益性向上を目指していく。その他の産業振興施策としては、JICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）¹¹を活用し、フィリピン共和国ビクトリアス市と農業と観光分野での技術支援を実施しており、農業分野では製糖業からの多角化を進めるなどを目指し、農家の研修などを充実させていく。観光分野では観光資源の発掘や観光客受入体制の整備などに資する技術協力を行っていく。

10 既に、東風マンゴー園の「沖縄南城市産純粋蜂蜜」やTV番組で紹介されて以来、人気を博して品切れ状態が続いている、みやぎ農園の「マヨネーズ」など、商品化されているものもあり、「地域循環創造交付金」を活用した取組が実施されている。

11 日本のNGO、大学、地方自治体及び公益法人の団体等がこれまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した、途上国への協力活動をJICAが支援し、共同で実施する事業である。

■(第19-1-1図)地域経済循環マップ
生産分析 生産額(総額) 中分類 移輸出入カラー
[沖縄県南城市 2010年]



Point!

農林水産業、食料品、窯業・土石製品が移輸出入カラーでプラスを示し、南城市の「稼ぐ産業」となっている。

■(第19-1-2図)農林水産業マップ
農産物販売金額(総額)
[沖縄県上位10市町村 2010年] 再編加工

2010年	市町村名	金額(万円)	シェア	主要作物
1	宮古島市	883,750	17.6	工芸農作物
2	石垣市	367,675	7.3	肉用牛
3	南城市	325,025	6.5	養鶏
4	伊江村	283,350	5.6	花き・花木
5	八重瀬町	264,200	5.3	養豚
6	糸満市	253,250	5.0	花き・花木
7	今帰仁村	214,750	4.3	花き・花木
8	名護市	211,125	4.2	工芸農作物
9	うるま市	202,875	4.0	花き・花木
10	本部町	202,325	4.0	肉用牛
農産物販売金額(総額) (万円)				
沖縄県全体		5,031,675	工芸農作物	

Point!

南城市の農産物販売金額(総額)は、県内では宮古島市、石垣市に次ぐ3位であり、本島においては1位であることが分かる。

■(第19-1-3図)農林水産業マップ 農業花火図 農業部門別販売金額(総額)

[沖縄県南城市 2005年]



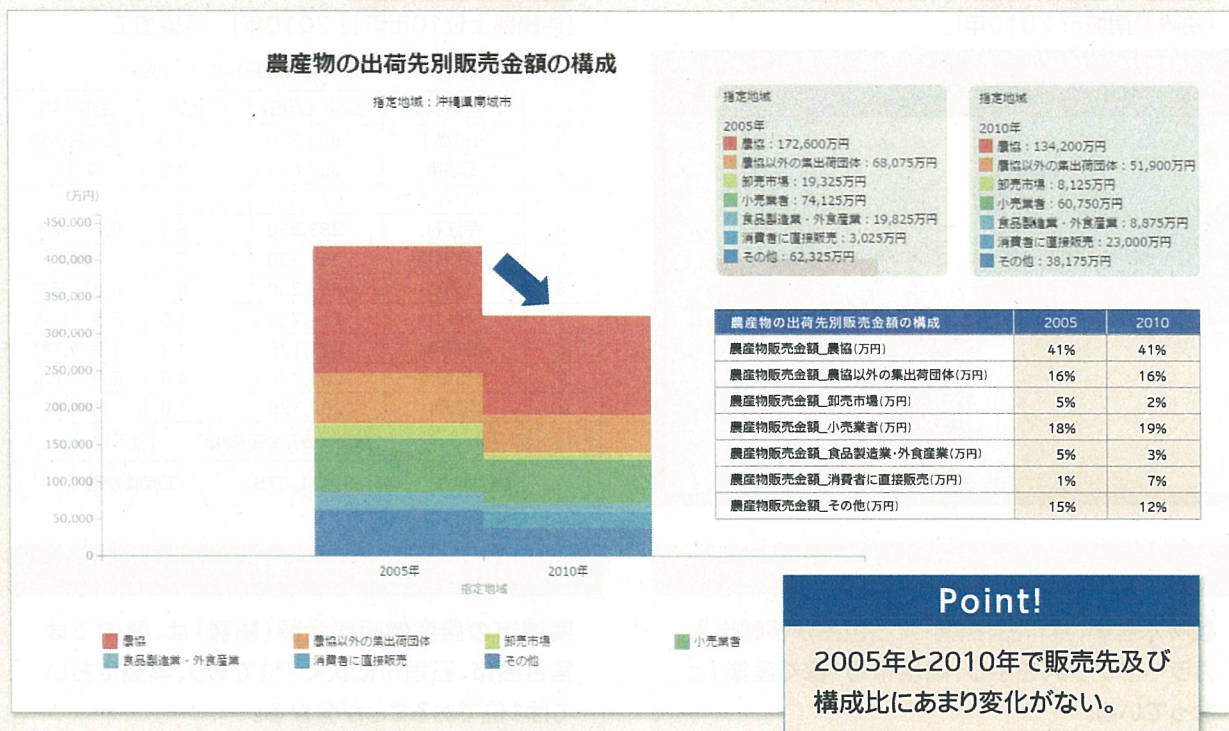
[沖縄県南城市 2010年]



Point!

南城市の農業は酪農、養鶏、養豚などの畜産業及び施設野菜、露地野菜など多岐にわたるが、販売金額の総額は減少している。

■(第19-1-4図)農林水産業マップ 農産物販売金額 農産物の出荷先別販売金額の構成
[沖縄県南城市]



📷 南城市の風景

■玉泉洞



(おきなわワールド)

■新原ビーチ

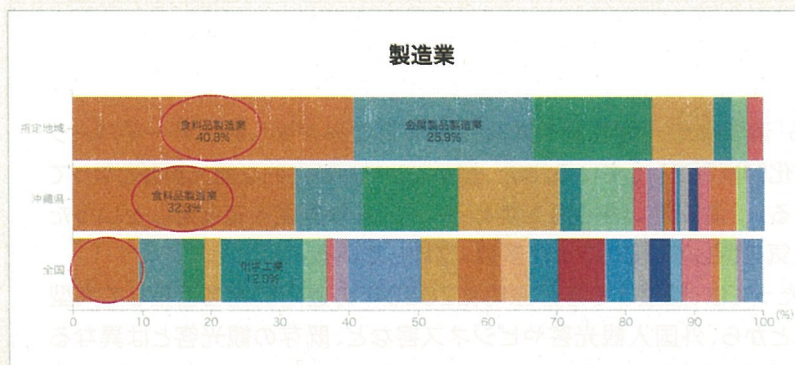


■知念城跡



1 RESASを使った分析例 | 農業と食料品製造業の連携に関する分析

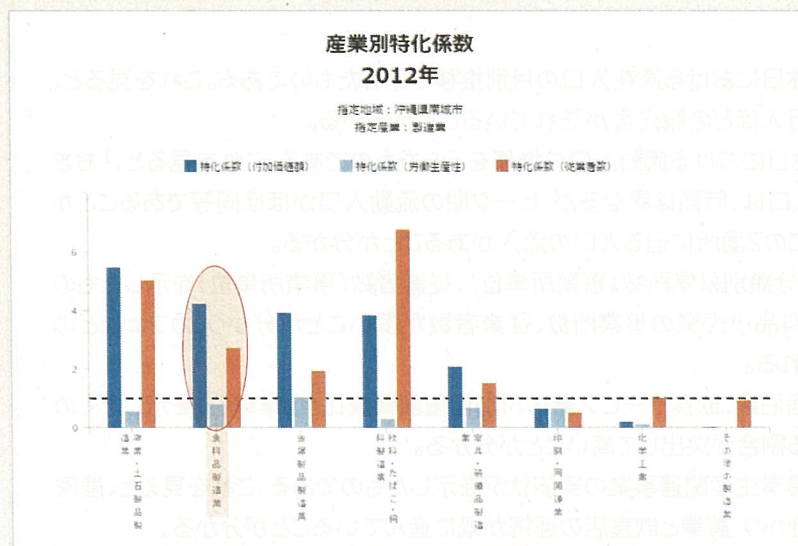
■(第19-1-5図)産業マップ 全産業花火図 付加価値額(企業単位) 中分類 割合順
[沖縄県南城市 製造業 2012年]



Point!

製造業の付加価値額は、食料品製造業の占める割合が沖縄県、全国と比較しても高く、産業が集積していることが分かる。

■(第19-1-6図)産業マップ 稼ぐ力分析
[産業別特化係数 2012年 製造業 沖縄県南城市]



Point!

食料品製造業の特化係数は付加価値額、従業員数が高い。

■(第19-1-7図)産業マップ 企業別花火図
[食料品製造業] 再編加工

企業名と製造分野	域外販売 () は県外	域内販売	域外仕入	域内仕入	
1 A社 水産食品製造	6(1)	0	6	2	※原料仕入は域内の漁協
2 B社 健康食品製造	7(2)	0	9	1	※原料仕入は域内・域外
3 E社 畜産食品(酪農)製造	10(0)	0	5	0	
4 F社 健康食品製造	6(1)	0	3	0	
5 G社 菓子類製造	5(1)	0	4	0	
6 J社 畜産食品製造	0(0)	1	0	0	販売先は食肉センター
7 K社 畜産食品製造	0(0)	1	0	0	販売先は食肉センター

Point!

中核企業候補(コネクター度50%、ハブ度50%)では、域外仕入、販売が多いことが分かり、域内取引の促進が必要である。

農業と観光産業の連携に関する分析

●活用の背景

南城市では、世界文化遺産である「^{せーみあ うえき}斎場御嶽」、鍾乳洞や沖縄古来の町並みが楽しめるテーマパーク「おきなわワールド」などの歴史的・文化的資源を有している。また、豊かな自然も魅力的な観光資源となっており、近年では、「高所から海を眺める」、「海岸沿いから海を眺める」、「広大な庭園を有する」、といった個性的な特徴を持つ、観光客にも人気を博しているカフェが多数、立地している。

今後の観光振興を検討するに当たっては、隣接する与那原町^{よなばるちやう}に2020年の運用開始を目指して大型MICE施設の誘致が決定していることから、外国人観光客やビジネス客など、既存の観光客とは異なるニーズを持つ来訪者に対して、南城市の観光資源の魅力を発信していく施策が必要である。これを踏まえて、重点的に振興していくべき観光資源や観光メニューの開発を検討するために、RESASを活用して南城市の流動人口の動向分析を行った。

●分析内容

第19-2-1図は、南城市の平日、休日における滞在人口の月別推移を示したものである。これを見ると、年間を通じて月平均で3万人から4万人ほどの観光客が訪れていることが分かる。

第19-2-2図は、南城市の平日、休日における流動人口の推移を示したものである。これを見ると、「おきなわワールド」、「斎場御嶽」の流動人口は、時期は異なるが、ピーク期の流動人口がほぼ同等であることが分かる。更に、「カフェくるくま」には、この2箇所に迫る人口の流入があることが分かる。

第19-2-3図は、南城市の産業中分類別事業所数(事業所単位)、従業者数(事業所単位)を示したものである。これを見ると、飲食店、飲食料品小売業の事業所数、従業者数が多いことが分かり、カフェなどの飲食店が充実していることが示唆される。

第19-2-4図は、南城市における宿泊業、飲食サービス業の付加価値額構成比(企業単位)を示したものである。これを見ると、飲食店の占める割合が突出して高いことが分かる。

第19-2-5図は、南城市における農業生産関連事業の実施状況を示したものである。これを見ると、農家レストランの実施状況が高いことが分かり、農業と飲食店の連携が既に進んでいることが分かる。

農業と観光産業の連携に関する分析

●得られた結論・今後の展開

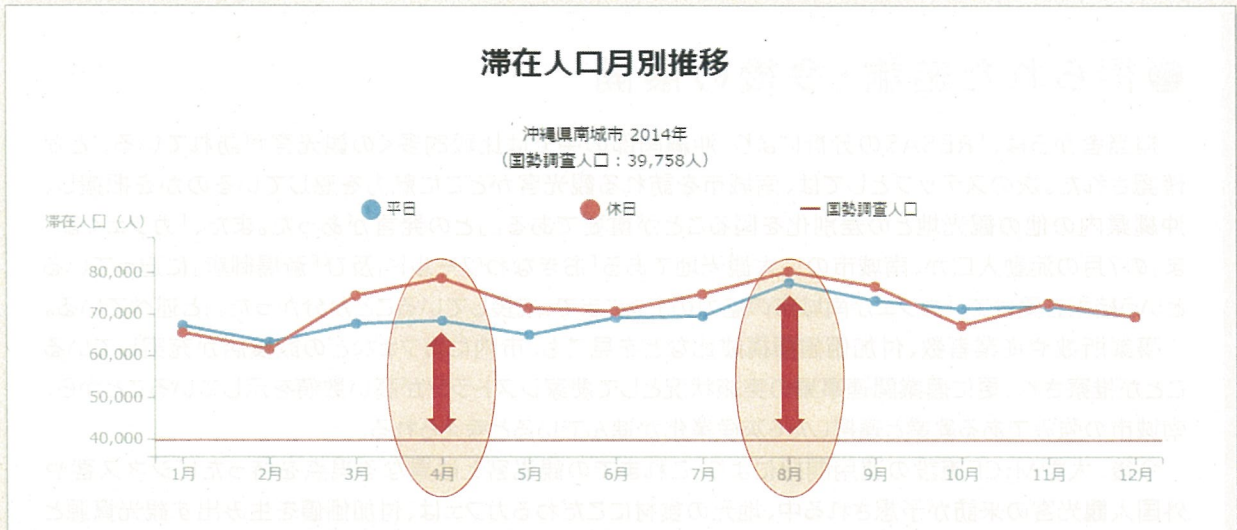
担当者からは、「RESASの分析により、沖縄南部の中では比較的多くの観光客が訪れていることが確認された。次のステップとしては、南城市を訪れる観光客がどこに魅力を感じているのかを把握し、沖縄県内の他の観光地との差別化を図ることが重要である。」との発言があった。また、「カフェくるくま」の7月の流動人口が、南城市の二大観光地である「おきなわワールド」及び「斎場御嶽」に迫っているという結果を受けて、「カフェが南城市の魅力の1つにまで、成長していることが分かった。」と述べている。

事業所数や従業者数、付加価値額構成比などを見ても、市内にカフェなどの飲食店が充実していることが推察され、更に農業関連事業の実施状況として農家レストランが高い数値を示していることから、南城市の強みである農業と連携した6次産業化が進んでいると考えられる。

今後、大型MICE施設の運用開始により、これまでの観光客とは異なる視点を持ったビジネス客や外国人観光客の来訪が予想される中、地元の食材にこだわるカフェは、付加価値を生み出す観光資源となることが期待され、そのポテンシャルを活かすための取組の重要性が確認された。

今後は、飲食店と連携した6次産業化の取組を更に支援するとともに、「斎場御嶽」等の観光資源とカフェの周遊プランの開発等を検討する予定である。また、観光ポータルサイト「らしいね南城」運営事業を更に進め、観光情報発信や観光交流、観光客の利便性向上を図っていく方針である。

■(第19-2-1図)観光マップ 滞在人口率 滞在人口月別推移
[2014年 沖縄県南城市]

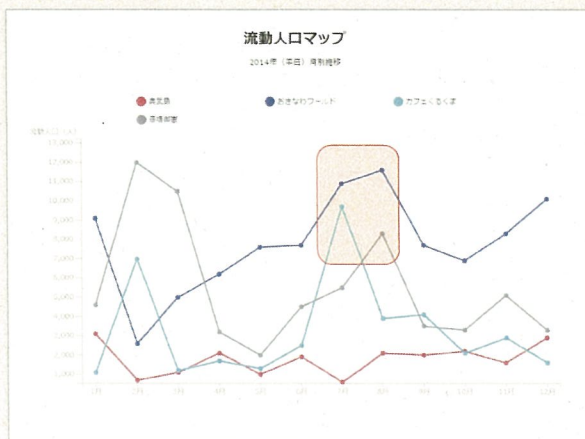


Point!

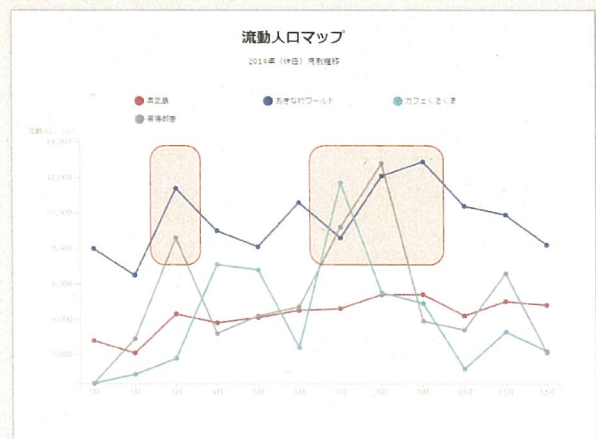
年間を通じて月平均で3万人から4万人ほどの観光客が南城市を訪れている。

■(第19-2-2図)観光マップ メッシュ分析(流動人口) 流動人口マップ
[月別推移 斎場御嶽、奥武島、カフェくるくま、おきなわワールド]

[2014年(平日)]



[2014年(休日)]



Point!

「おきなわワールド」、「斎場御嶽」の流動人口のピークが近い。更に、「カフェくるくま」には、この2箇所に迫る人口の流入がある。

南城市の観光資源



① 久高島

琉球開びゃくの祖アマミキヨが最初につくったとされる島で、五穀発祥の地、神の島と呼ばれている。



② 東風マンゴー園の「沖縄南城市産純粋蜂蜜」

マンゴーの授粉をしている蜜蜂から採蜜した天然100%蜂蜜。主に近年薬草として注目されているシロノセンダングサ(サシグサ)から集めた蜜である。沖縄県南城市産の蜂蜜は沖縄産でも特に採蜜量の少ない蜂蜜である。

③ みやぎ農園のマヨネーズ

卵は2週間、マヨネーズであれば1年間日持ちすることに着目し、保存できる商品として開発。マヨネーズに最低限必要な材料だけでできた、卵の味を感じられる、素朴なマヨネーズ。

④ おきなわワールド

美しい鍾乳洞や赤瓦の町並み、そしてハブ植物公園など見どころ満載。スーパーエイサーの演舞も毎日開催している。



(おきなわワールド)

⑥ 斎場御嶽

創世神アマミキヨがつくった琉球開びゃく七御嶽中の最高の聖地。2000年12月に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録された。



⑤ アジアンハーブレストラン カフェくるくま

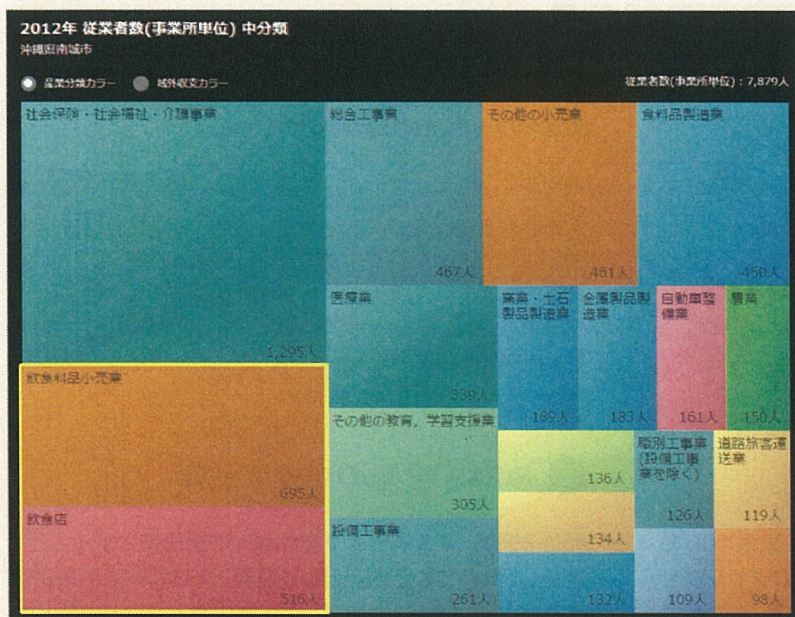
テレビCMなどの撮影にも使われ、有名人も多く訪れる南部の元祖ロケーションカフェ。本場タイ人のシェフが作るエスニック料理をはじめ、ファミリー向けのメニューもそろ。ハーブなど健康食品を扱う会社が運営しているので食材も安心・安全にこだわった良質なものが味わえる。



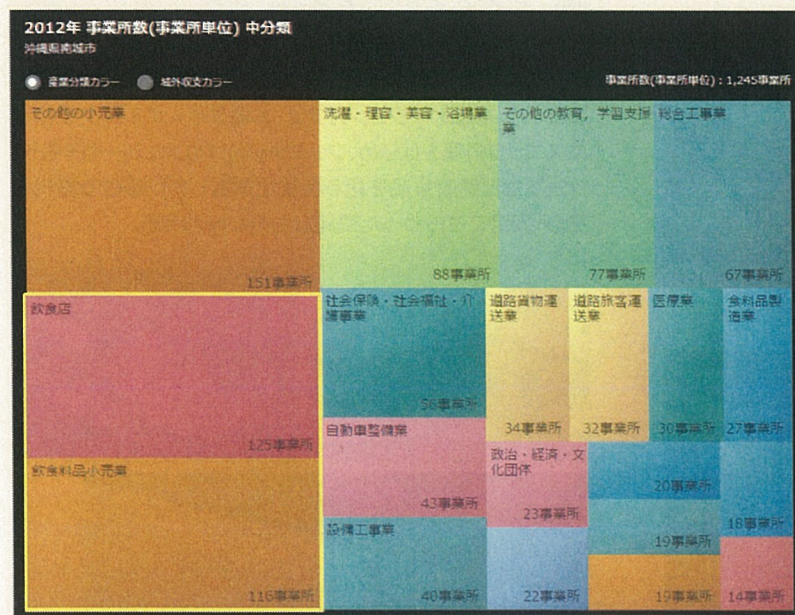
2 RESASを使った分析例 | 農業と観光産業の連携に関する分析

■(第19-2-3図)産業マップ 全産業花火図 中分類 産業分類カラー

[従業者数(事業所単位) 沖縄県南城市 2012年]



[事業所数(事業所単位) 沖縄県南城市 2012年]

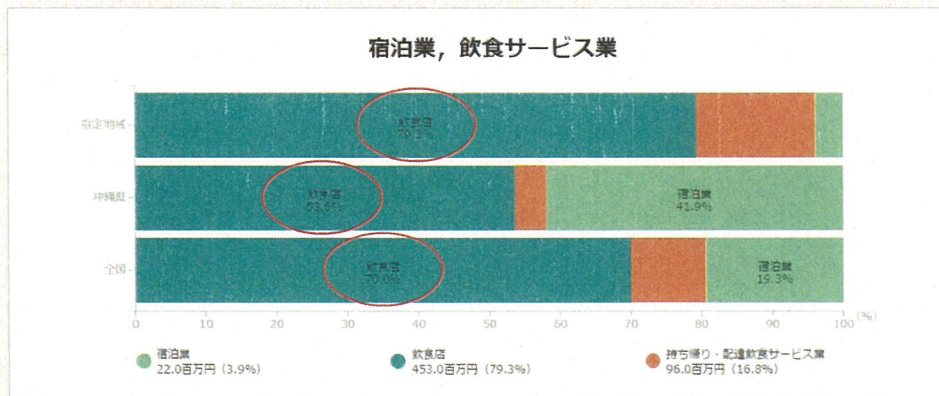


Point!

飲食店、飲食料品小売業の事業所数、従業者数が多く、カフェなどの飲食店が充実していることが示唆される。

2 RESASを使った分析例 | 農業と観光産業の連携に関する分析

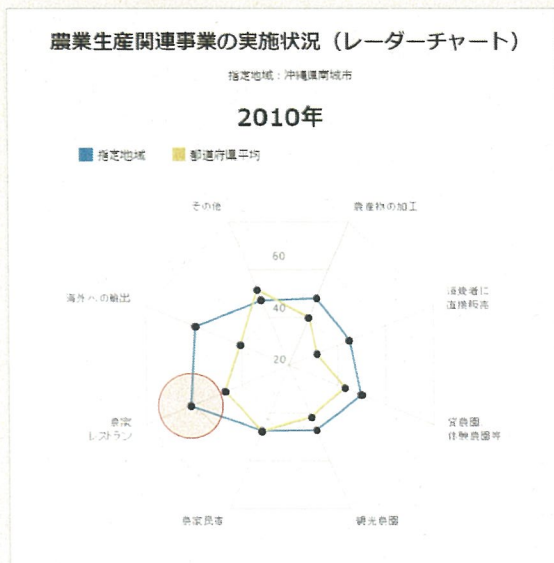
■(第19-2-4図)産業マップ 全産業花火図 付加価値額(企業単位) 中分類 割合順
[沖縄県南城市 宿泊業,飲食サービス業 2012年]



Point!

宿泊業, 飲食サービス業の付加価値額構成比(企業単位)を見ると、飲食店の占める割合が突出して高い。

■(第19-2-5図)農林水産業マップ 農業者分析 農業生産関連事業の実施状況(レーダーチャート)
[沖縄県南城市]



Point!

農業生産関連事業の実施状況は農家レストランが高く、農業と飲食店の連携が既に進んでいることが示唆される。